

平成18年度「専修学校社会人新キャリアアップ教育推進事業」成果報告書

事業名	社会人のための起業チャレンジ講座		
法人名	学校法人第一平田学園		
学校名	中国デザイン専門学校		
代表者	理事長 平田 眞一	担当者 連絡先	中山 裕志 TEL 086-225-0791
<p>1. 事業の概要</p> <p>本事業では、専門学校で実践されている起業家育成教育の講座を、起業を目指す社会人を対象として企画し、その実施に取組んだ。多くの起業家講座やセミナーが事業計画の策定を目的とするのに対し、本事業の起業チャレンジ講座は、実際の起業を支援することを目的とした。そのため講座で事業計画立案に終わるのではなく、起業家や会社経営者を審査員として招いたビジネスプロデュースコンペティションを開催し、事業計画の評価とともに起業機会の創出を実現した。</p> <p>平成16年度、平成17年度で開発をした起業家育成のための「ケーススタディ教材」を活用し、社会人向けの内容に再編集をした。再編集および起業チャレンジ講座の実施内容の調整・検討、実施結果のとりまとめなどのため、教材調整委員会を組織し、3回の委員会を開催した。また、ビジネスプロデュースコンペティションの企画、運営のためBPC運営委員会を組織し、2回の委員会を開催した。</p> <p>起業チャレンジ講座は、専門学校7校で実施し、102名が受講、36プランの事業計画がビジネスプロデュースコンペティションに提出された。書類選考を実施し、9プランがビジネスプロデュースコンペティションにおいて起業家や会社経営者へ事業計画のプレゼンテーションを行った。</p> <p>プレゼンテーションを行ったうち3プランに事業化について打診があった。また、グランプリを獲得したプランには企業2社より、具体的な話を進めたいとの要望をいただいている。</p> <p>本事業の成果の普及を図るため、当該教育を行っている専門学校など825校にケーススタディテキストおよび総括報告書を配布するとともに成果報告会を開催し、その普及に努めた。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>専門学校で実践されている起業家育成教育の講座を、起業を目指す社会人を対象として企画した。講座開設に当たり、教材を社会人向けに再編集し、協力校7校と内容の検討を行った。講座受講者が策定した事業計画を、起業家や会社経営者を招いたビジネスプロデュースコンペティションで発表し、起業の可能性を実現することにより、実際の起業を支援した。</p> <p>当初、社会人起業チャレンジ講座は、社会人を対象に募集をしたが、教材の有効性およびビジネスプロデュースコンペティションの起業支援、起業機会の創出の有効性を検証するため、専門学校学生も対象とすることとした。</p>			

社会人起業チャレンジ講座の受講者からビジネスプロデュースコンペティションに提出されたビジネスプランに事業化の打診があり、具体的な話が進められていることは、コンペの評価が実社会の評価へ結びついた事であり、起業支援、起業機会の創出に有効であることが実証された。

②事業により得られた成果

■教材

平成16年度、平成17年度で開発をした起業家育成のための「ケーススタディ教材」を活用し、現実に即したビジネス事例を掲載、開業資金や運転資金などの詳細を解説、さらに事業計画の策定では、実際の創業準備を想定し、資金調達などを視野に入れたものとし、社会人向けの内容に「ケーススタディ教材」を再編集した。再編集に際し意見を伺った起業か支援団体からは、バランスの取れた使いやすい教材であるとの評価を得た。社会人起業チャレンジ講座を実施した専門学校7校では、次年度教材として活用することが決定している。

■社会人起業チャレンジ講座

社会人起業チャレンジ講座は、仙台、東京、神奈川、静岡、大阪、岡山、高知の全7箇所各専門学校協力のもとで開催された。受講人数は102名であった。当初、社会人を対象として募集したが、専門学校での開催、募集告知、教材の有効性の検証、起業機会の創出・起業支援の有効性の検証などの理由から、専門学校学生も対象とすることとした。講座受講者からビジネスプロデュースコンペティションに36プランのビジネスプランの応募があった。

■ビジネスプロデュースコンペティション

社会人起業チャレンジ講座で策定したビジネスプランを起業家・会社経営者などの審査員の前でプレゼンテーションした。実社会の視点からのビジネスプラン評価・講評を行うとともに、起業の機会・可能性を実現する場の提供を目的にした。講座受講者からビジネスプロデュースコンペティションに36プランのビジネスプランの応募があり、書類選考により9プランがプレゼンテーションを実施した。

ビジネスプロデュースコンペティション終了後、3プランに事業化の打診があり、内1プランには、企業2社より具体的に話を進めたいとの問い合わせがあった。コンペの評価が実社会の評価へ結びつき、起業支援、起業機会の創出に有効であることが実証された。

③今後の活用

教材については、当校、次年度教材として利用することが決定している。また、社会人起業チャレンジ講座を実施協力いただいた専門学校6校でも次年度として活用することが決定された。

本事業では、起業チャレンジ講座受講・ビジネスプラン策定→ビジネスプロデュースコンペティションでの評価という一連の教育プログラムは、起業家育成に有効であるとともに起業機会の創出、起業支援にも有効であることが実証された。

本事業で「社会人起業チャレンジ講座」を実施した専門学校7校の内、6校で次年度「社会人起業チャレンジ講座」実施が決定・検討されているとともに、ビジネスプロデュースコンペティション開催の要望が寄せられている。

④次年度以降における課題・展開

本事業では、起業機会の創出、起業支援を目的に、講座～ビジネスプロデュースコンペティションという一連の教育プログラムを展開したが、社会人の講座受講については、募集時期、告知方法、講座の時間、曜日、コンペの時期など課題を残すこととなった。

次年度については、当校のほか、今回「社会人起業チャレンジ講座」を実施した専門学校6校の内5校が「社会人起業チャレンジ講座」の実施を決定および検討をしている。社会人の募集に当たって、商工会議所、ハローワーク、など地域の起業家教育推進機関と連携を強化し、有効な募集活動を行うこととしたい。また、実施の時間帯や曜日については、平日夜間、土日の活用などを検討する。

3. 事業の実施に関する項目

①キャリアアップ講座の実施

■社会人起業チャレンジ講座

日 程 平成18年11月から平成19年1月
開 催 地 仙台・東京・神奈川・静岡・大阪・岡山・高知
対 象 当初、起業を目指す社会人を対象としていたが、専門学校学生も含め対象を広げた
時 間 4時間から10時間
受講者などにより、開催地ごとに対応した
参 加 者 仙台 東北電子専門学校 12名
東京 日本電子専門学校 13名
横浜 岩谷学園テクノビジネス専門学校 5名
静岡 静岡産業技術専門学校 10名
大阪 大阪芸術大学附属大阪美術専門学校 6名
岡山 中国デザイン専門学校 15名
高知 国際デザインビューティカレッジ 41名
内 容 ・起業家とは
・起業準備のチェックポイント
・事業計画の作成
・プレゼンテーション

■ビジネスプロデュースコンペティション

社会人起業チャレンジ講座で策定したビジネスプランにより、起業家・会社経営者などの審査員の前でプレゼンテーションを実施した。実社会の視点からのビジネスプラン評価・講評を行うとともに、起業の機会・可能性を実現する場の提供を目的にした。

日 程 平成19年2月11日
※起業チャレンジ講座受講生から36プランの提出があったため、事前に書類選考を行い、9プランがプレゼンテーション実施プランに選考された。
開 催 地 東京(東京工科専門学校)
対 象 社会人のための起業チャレンジ講座の受講者
時 間 1プラン質疑応答を含め15分程度、6時間(1日)
内 容 事業計画のプレゼンテーションを実施した。

②その他

本事業は、起業家育成講座の実施にととまらず、起業機会の創出、起業支援を目的として実施した。講座受講からビジネスプロデュースコンペティションという一連の教育プログラムは、起業機会の創出、起業支援に有効であることが実証された。